



2016年9月印刷の月

功労賞12氏、振興賞18氏、特別賞1団体を表彰

第15回印刷産業環境優良工場表彰 文唱堂印刷株式会社に経済産業大臣賞

当連合会が主催する「2016年9月印刷の月」記念式典は、9月14日（水）午後4時30分から東京・紀尾井町のホテルニューオータニ「鶴の間」で開催され、日印産連表彰で印刷功労賞12氏、印刷振興賞18氏、特別賞1団体が表彰され、山田雅義会長より表彰状と記念品が贈られた。

また、第15回印刷産業環境優良工場表彰では、文唱堂印刷株式会社・町屋総合工場が経済産業大臣賞、経済産業省商務情報政策局長賞2工場が表彰され、経済産業省文化情報関連産業課長・平井淳生氏より表彰状と記念品が贈られた。日印産連会長賞5工場、同特別賞1工場、同奨励賞9工場の表彰は、それぞれ代表者が山田会長より賞状と記念品が授与された。

このあと、午後6時から600名を超す参加を得て懇親会が盛大に開催され、表彰受賞者を囲んで和やかな歓談が繰り広げられた。

これより先、午後3時30分からは日本製紙株式会社・専務執行役員の佐藤信一氏を講師に招き「紙つなげ—日本製紙石巻工場 復興の取り組み」をテーマに2011年3月11日の東日本大震災で壊滅的被害を被った同社石巻工場の復興への道のりと事業承継を含めた防災対策の重要性について詳述した。

記念式典

記念式典は、全員起立しての国歌斉唱に続き、主催者を代表して山田雅義会長が、出席のご来賓、会員、関連業界の出席者にお礼を述べた後、日本経済の現状について、「円高基調が定着し、内需の力強さが見られない状況で、かなり弱々しい状況となっている」とし、「印刷産業としてもどのような方向に進んで行くか難しい決断を下しながら各社さまさまざまなご努力がなされている。こうした時期だからこそ我々の役割、強みを活かして新

たな戦略を展開することが重要である」との認識を示した。

こうした背景から、「昨年、設立30周年を記念してグランドデザインを発表し、印刷産業がこれまで以上に高い社会的責任を果たすための活動に集中していくことを表明し、そのために、「特に、印刷産業が社会の中で果たしている機能・役割をより理解していただくための情報発信の強化に取組み、この式典以降も引き続き、印刷産業の周知活動をさらに広げてい

きたい」としたうえで、「昨年から『印刷用語集』をWEB版で発行し、会員団体や所属企業等のホームページでもご紹介いただき、利用者が急増している。また日印産連のホームページも8月に全面リニューアルし、会員10団体やその傘下企業からの情報発信もできるようなシステムにしており、印刷に係る情報のハブとして機能させていきたい」との考えを示した。

さらに今年は、『社会責任報告書』を初めて発行いたします。印刷産業が、



主催者を代表して挨拶する山田雅義会長

社会的責任を果たすために行っているさまざまな活動を年度ごとに情報発信していくことで、印刷産業への理解を促進し、さらに社会から信頼される産業となることをめざす」と意欲を覗かせた。

ついで、「本式典では、30 名の方々と1社が『日本印刷産業連合会表彰』を受賞されます。また、印刷産業は早くから環境改善に努力された18 工場が『印刷産業環境優良工場表彰』を受賞されます」と、さらなる業界発展のための尽力に期待を表明した。

来年、アラブ首長国連邦のアブダビで開催される『技能五輪国際大会』に派遣する日本代表について、「現在選考中で11月に決定する予定です。来年1月の新年交歓会では代表選手をお披露目できる」と述べた。

式典に先立って行われた日本製紙の佐藤信一専務執行役員による記念講演会に触れ、「未曾有の大震災からいち早く復旧し工場の再建を実現した背景には社員、そして地域社会の復興への強い気持ちとさらに活字文化を守るという強い志があったことを確認いたしました。製紙会社とともに活字文化を支える印刷産業もこうした自然災害にしっかりと備えていかなくてはなりません」と災害対策の重要を改めて痛感したと強調した。

「事業継続計画（BCP）では、さまざまな取り組みが行われていると聞いていますが、BCPは社会の基盤を支え

る製品サービスなどを提供する印刷産業としては、この事業継続が大切な社会的責任と捉えることができます」とし、印刷産業の重要課題のひとつとの認識を示し、開会の挨拶を行った。

ついで司会者より出席のご来賓が紹介されたあと、代表して経済産業省商務情報政策局長の安藤久佳氏が本式典で表彰される方々のご努力に祝意を表明したうえで、「山田会長よりお話がございましたが、去年は日印産連設立30周年を記念してグランドデザインが発表されました。また、業界を取り巻く皆様方、中小企業、小規模事業者の皆様方には大変厳しい状況だと思います。アベノミクスも『途半ば』という言葉がつくようになっています。政府も全力をあげて成長戦略、経済環境改善に取り組んでいます」と経済情勢の厳しさに触れた。

そのような中、「IoT、AI、BIGデータという言葉が駆け巡っていますが、私どもは第4次産業革命と言っています。残念ながら現実にインターネットやスマートフォンといった情報ツールの進展の中で、従来からの印刷物という形での媒体の割合は徐々に狭まってきています」とし、「皆様方を取り巻く経営環境は構造的に厳しくなっている」と指摘した。

さらにそれを踏まえた上で「それでも、下請取引条件の改善、さらには、賃上げを少しでも実現していただきたい」と厳しい注文を付けた。

その対応として、「皆様方が設備投資やITの導入に少しでも役立てていただきたいということで補正予算の中で『地域未来投資促進事業』ということで1000億円予算措置を講じた」と、従来の『ものづくり補助金』を発展させた支援体制を説明した。

また、安倍内閣の大きな課題となっている取引条件の適正化に触れ、「世

耕大臣は、下請取引法の運用基準の改正、あるいは下請法のガイドラインの改訂を含めてできることは全力で取り組む覚悟である」との方針が示された。

「いよいよ2020年に東京オリンピック・パラリンピックを迎えます。日本、東京を世界に発信し、また日本が世界から注目されることは大変なチャンスでもあります。こういった中で、印刷という従来の方式から新しい媒体のあり方を含めて世界に発信していただける機会が到来する」と新しい印刷産業に期待を表明する挨拶を行った。



来賓祝辞・安藤久佳経済産業省商務情報政策局長

日印産連表彰に30氏、1社

引き続き、平成28年度の日印産連表彰に移り、印刷功労賞、印刷振興賞、特別賞の表彰が行われた。印刷功労賞には、長代厚生氏（株廣濟堂）、山元悟氏（三晃印刷株）、吉田忠次氏（株ダイシンコラボレーション）、木村俊作氏（株伸和）、清水順市氏（野崎工業株）、吉岡新氏（共立速記印刷株）、山崎喜市氏（山崎紙工株）、永井徹氏（株ナガイアルテス）、大和誠氏（株ヒロミ産業）、後藤啓行氏（中京化学株）、井野益美氏（有巽社）、小原隆氏（株大和紙工業）の12氏が登壇、代表して山崎喜市氏に山田会長より表彰状と記念品が贈られた。

また、印刷振興賞は2組に分かれて登壇。1組目は、萩原恒昭氏（凸版印刷株）、柴田治朗氏（株千修）、新井妙子氏（共同印刷株）、塚本剛

印刷功労賞



印刷功労賞受賞者を代表して表彰状を受ける山崎喜市氏（山崎紙工㈱）



印刷功労賞受賞の諸氏

印刷振興賞



印刷振興賞受賞1組目の諸氏



印刷振興賞受賞者1組を代表して表彰状を受ける
岩永正人氏
（㈱正文社印刷所）



印刷振興賞受賞2組目の諸氏



印刷振興賞受賞者2組を代表して表彰状を受ける
須藤武氏
（㈱都写真製版所）

特別賞



特別賞受賞の大川哲郎氏（㈱大川印刷）（写真右）と山田会長（写真左）

氏（石岡加工㈱）、岩永正人氏（㈱正文社印刷所）、原健三氏（福博印刷㈱）、松本豪雄氏（㈱松本コロタイプ光芸社）、浜岡光雄氏（㈱木万屋商会）、白尾浩志氏（トキワ印刷㈱）9氏を代表して、岩永正人氏に山田会長より、表彰状と記念品が贈られた。

2組目は、高野直樹氏（常磐総合印刷㈱）、斎藤成氏（㈱公社）東京グラフィックサービス工業会）、鈴木博氏（鈴木製本㈱）、作田恵男氏（㈱共立製本）、須藤武氏（㈱都写真製版所）、谷口真司氏（谷口シール印刷㈱）、赤穂昌之氏（㈱日商グラビア）、可児実氏

（㈱マルタ工業）、関隆吉氏（㈱山宝社）9氏を代表して、須藤武氏に山田会長より、表彰状と記念品が贈られた。

各種活動を通じて印刷産業界の地位向上に寄与した個人・団体に贈られる特別賞には、「㈱大川印刷における地球温暖化防止活動」の取組みが評価され、大川哲郎氏（㈱大川印刷）に山田会長より、表彰状と記念品が贈られた。

今年度の環境優良工場表彰は18工場

第15回印刷産業優良工場表彰に移り、司会者より環境優良工場表彰の意義が述べられたあと、本年度の受賞工場は、経済産業大臣賞1工場、経済産業省商務情報政策局長賞2工場、日本印刷産業連合会会長賞

5工場、同特別賞1工場、同奨励賞9工場の計18工場の表彰になると発表された。

経済産業大臣賞は、文唱堂印刷株式会社・町屋総合工場が受賞、代表取締役・橋本唱市氏、製造本部課長・布施勇一氏が登壇、経済産業省商務情報政策局文化情報関連産業課長・平井淳生氏より表彰状と記念品が贈られた。

経済産業省商務情報政策局長賞には、杉山メディアサポート株式会社・都田工場と株式会社岐阜文芸社・本社工場の2工場が受賞し、杉山メディアサポートは取締役・大高里枝子氏、岐阜文芸社は代表取締役・飯尾賢氏が登壇、平井淳生課長よりそれぞれ表彰状と記念品が贈られた。

次いで、日本印刷産業連合会会長

環境優良工場表彰



経済産業大臣賞・平井淳生課長を囲んで文唱堂印刷株式会社・町屋総合工場代表取締役・橋本唱市氏(写真左)、製造本部課長・布施勇一氏(写真右)



経済産業省商務情報政策局長賞・杉山メディアサポート株式会社・都田工場(取締役・大高里枝子氏)(写真左)と株式会社岐阜文芸社・本社工場(代表取締役・飯尾賢氏)(写真右)



日印産連会長賞・代表して表彰状を受ける株式会社多漣堂の忍田幸男氏

特別賞・株式会社啓文社の徳永昌二氏

会長賞と特別賞の受賞者



奨励賞・山田会長を中央に記念撮影



受賞者代表謝辞
株式会社ダイシンコラボレーション取締役会長
吉田忠次氏

賞表彰に移り、株式会社天理時報社本社工場(代表取締役専務・島岡亮博氏)、あさひ高速印刷株式会社(代表取締役・岡達也氏)、株式会社北四国グラビア印刷・本社工場(代表取締役社長・奥田拓己氏)、株式会社多漣堂・本社工場(工場長・忍田幸男氏)、株式会社日本ラベル・板橋工場(代表取締役社長・平山良一氏)の5社の代表者が登壇、引き続き特別賞には、株式会社啓文社・本社工場(代表取締役・徳永昌二氏)が登壇、会長賞受賞社を代表して株式会社多漣堂の忍田幸男氏に、また特別賞の株式会社啓文社の徳永昌二氏に山田会長よりそれぞれ表彰状が授与された。

ついで、奨励賞表彰に移り、日本ラベル印刷株式会社・本社・工場、足

利印刷株式会社、株式会社中央パッケージング・本社工場、光写真印刷株式会社、光ビジネスフォーム株式会社・高尾工場、株式会社プリプレス・センター・PPC ファクトリー、株式会社三光堂製本・城南島本社工場、株式会社清美堂・工場、太美工芸株式会社の9工場が選ばれ、代表して光ビジネスフォーム株式会社・高尾工場工場長の藤田清氏に山田会長より表彰状が授与され、第15回環境優良工場表彰式を終えた。

このあと、受賞者を代表して印刷功労賞受賞の株式会社ダイシンコラボレーション取締役会長の吉田忠次氏が受賞の謝辞に立ち、「私は大阪府印刷工業組合の理事長に就任直後、大阪の印刷会社による胆管がん問題が発生し、対応に苦慮いたしま

した。その際の日印産連の適切な対応に感謝を申し上げます。私自身、売上げが毎年減少する中で継続して組合増強運動に取り組み平成26年には前年比6社増という成果を上げることができました。また、胆管がん問題の再発防止、組合員の脱退防止等の観点から理事長時代には組合員一社一社を訪問して直接組合員とお会いして組合員の生の声を聞いて組合事業に活かし反映させるといったことも行いました。そのような活動が今日の受賞に結びついたのではないかと考えております。人生80年の時代ですからこれからまだまだ時間はたっぷりあります。今日の受賞を機に微力ながらこれまで以上に印刷産業の発展のため尽くしていきたい」と、受賞のお礼を述べ、記念式典を終了した。

グランドデザイン実現に向け踏み出す年



懇親会会場全景

「2016年9月印刷の月」懇親会は、午後6時からご来賓の皆様、表彰受賞者、会員団体及び関連業界から600名を超す参加を得て盛大に行われた。

司会者より記念式典の無事終了が報告された後、開宴に先立ち、臼田真人副会長が、熊本・大分の大震災、昨今の風水害で被災された皆様にお見舞いを述べた後、「日印産連は、昨年よりグランドデザインを策定し、いよいよ実行に移すべく組織機構を変革させ、また運営も一つひとつより具体的な形に変わってきました。業界に山積している問題、新たに開く市場価値をミックスさせるためには10団体の結束、相互理解が不可欠です。

先ほどは日本製紙の佐藤専務から

復興に関するみなみならぬご努力、この限られた時間の中では語り尽くせぬ内容だったかと思います。震災に関するさまざまな教訓を具体的な準備に繋げていかなければいけないと思いました。記念式典では、多くの皆様が表彰されました。また印刷産業環境優良工場表彰も行われました。改めて表彰された皆様にお祝いを申し上げます」と開宴の挨拶を行った。

この後乾杯に移り、経済産業省文化情報関連産業課長平井淳生氏が表彰された皆様に祝意を述べた後、「去年も私はこの席に立たせていただきました。そのとき設立30周年に当たり、印刷産業のグランドデザインを策定し、そしてそれに向けて新しい一歩を踏み出すというお話を聞いて非常に

心強く感じた記憶がございます。今年は31年目ということで山田会長のもとにグランドデザインの実現に向けて大きな一歩を踏み出した年ではないかと考えています。アベノミクスはまだ途半ばです。印刷産業は地域に根ざした産業です。そのお取引先もすべての産業にわたる裾野の広い基盤的な産業です。皆様方が元気にならずして日本の地域の再生、成功はありません。8月にはアベノミクスを実現していくために未来への投資を促進するための新しい補正予算案をまとめて秋から始まる国会でご審議が始まります」と述べ、高らかに杯をあげ歓談に移った。

このあと、祝電披露、お祝いに駆けつけた牧山ひろえ参議院議員がお祝いのスピーチを行った。

宴もたけなわの午後7時すぎ、日印産連会員10団体の会長が登壇、小谷達雄副会長（日本フォーム印刷工業連合会会長）の『再びの乾杯』で中締めを行い、2016年9月印刷の月の全行事を終了した。



乾杯・平井淳生文化情報関連産業課長



開会挨拶
臼田真人副会長



お祝いに駆けつけスピーチする牧山ひろえ参議院議員



重鎮のそり踏み



中締め

講演会

「紙つなげー日本製紙石巻工場復興の取り組み」

佐藤 信一 氏 日本製紙株式会社 専務執行役員

「2016年9月印刷の月」の記念講演会は、日本製紙株式会社・専務執行役員の佐藤信一氏をお招きし、「紙つなげー日本製紙石巻工場 復興の取り組み」をテーマに開催された。2011年3月11日東北地方を襲った未曾有の大震災により壊滅的な被害を被った石巻工場について被災時の状況を生々しく詳述、切迫した現場を再現してみせた。そして復旧・復興へ向けての全社一丸となつての取り組みの実践を述べた上で、無防備な災害対策によって引き起こされる災厄は、人的・物質的被害に止まらず事業の継続に取り返しのできない結果をもたらすと警鐘を鳴らした。



本を片手に熱く語る佐藤信一氏

佐藤氏は、「時間をかけないで復興に臨んできた行程とその取り組みを紹介したい」とし、震災発生と被災状況、復興の道のり、今後の防災対策について講演を進めた。

まず、東北にある日本製紙の3つの中核工場の被災状況を説明。中でも石巻工場は震災そのもの、そして津波の影響をともに受けて壊滅的な被害を受けた。この復旧には1年半もの歳月を要した。石巻工場にある8号マシンが稼働したのは、まさに震災の翌

年の9月14日のちょうど今頃（講演開催時間）全員が万歳をし、復興への実感を噛み締めていたとのエピソードを披露した。

また、震災直後の様子を次のように振り返る。14時46分に地震が発生、わずか18分後の15時4分には守衛本部より一斉構内放送で避難指示が出て28分で全員が避難を完了。加えて停電しても使える設備の構築により1306人の従業員を一人も失うことなく生還させた防災対策の勝利でもあった。

この後の石巻の復興の道のりは、最初に復興計画が策定され、計画に従って被災状況の把握からはじめられた。港湾、出荷設備の損傷は大きく、ガレキの撤去作業、構内清掃、港湾設備の復旧と着実な作業が進められた。震災の翌年11月末に、石炭船の入港、チップ船の入港にこぎ着けたという。石巻工場最大のN6抄紙機は2年経った3月9日に操業再開、その年の8月末に工場は完全復興を果たし、長い戦いに一応のメドがたった。

まとめとして、佐藤氏は今後の防災対策について説明。自治体の津波対策に加え、独自の防災対策として施設防波堤の設置を決定、さらに防災設備を備えた新事務所の建設、発電機・水槽など非常用の



講演する佐藤信一氏

設備の敷設などを計画。

まとめとして佐藤氏は、震災からの教訓を4つあげた。第一は、災害訓練の実施・啓蒙、第二は迅速なトップの判断で、それぞれの組織の長も同じだと指摘、第三は、支援物資の輸送、人材の派遣などグループ一丸となった復興活動、第四として、お客様を中心としたステークホルダーとの信頼関係をあげた。

最後にエピソードを披露。生産不足に手を差し伸べてくれたのは他メーカーの方々だったことを明かし、「事業活動で培った信頼関係の重要性を再認識した」と振り返り、講演を終えた。



講演会場の模様